

# 令和7年度 学校関係者評価 結果報告書

## 1. 基本情報

学校名：学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校

設置課程・学科：医療専門課程 作業療法学科・理学療法学科・言語聴覚学科  
社会福祉課程 介護福祉学科

作成日：令和8年4月27日

作成者：多摩リハビリテーション学院専門学校 学校関係者評価委員会

## 2. 評価の基本方針と目的

本委員会は、学校が実施した自己点検・評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、教育活動の改善に向けた助言を得ることを目的としています。特に、職業実践専門課程として、産業界や地域社会と連携した教育の質保証・向上に資する評価を行います。

## 3. 学校関係者評価委員会の構成

職業実践専門課程の趣旨に鑑み、以下の多様な関係者により構成されています。

氏名	所属・職名等	属性（企業、卒業生、保護者等）
鈴木 康雄	医療法人社団和風会リハビリテーション部長	学校の専門分野における業界関係者（実習先、就職先）
奥山 浩太	所沢中央病院 技士長	
池田 健祐	所沢リハビリテーション病院 技士長	
竹田 陽介	多摩リハビリテーション病院 技士長	
加藤 哲禎	老人保健施設メディケア梅の園 事務長	病院・施設運営に関する専門家（管理運営）
高木 博之	所沢リハビリテーション病院 事務長	
人見 太一	杏林大学 保健学部 作業療法学科	専門分野における学校関係者（卒業生）

## 4. 開催実績

開催日時：令和8年3月16日(月)、内容：自己点検評価の説明、意見交換

Mail集約：令和8年3月28日(土)、内容：各項目の意見収集、評価報告書のとりまとめ

## 5. 重点目標

テーマ：全学科定員充足、国家試験全員合格に向けて

① 入学者の定員充足、②国家試験合格率90%、③退学者の減少（退学率5%以下）

6. 評価結果の詳細

評価項目（大項目）	学校の自己評価概要	委員会による評価・意見	学校の対応・改善策
【項目1】 教育理念・目的・目標	理念に沿った教育を推進する一方、理解の浸透と柔軟な対応が課題である。（評価3）	理念に基づく入試・教育の一貫性を高く評価。今後は理念を学生の日常行動へ繋げる工夫と、教職員間の共通理解の深化に期待する。	ガイダンス等で理念の意識付けを図り、社会変化に応じた点検と改善を進める。
【項目2】 教育課程、教育の実施、学修成果	各ポリシーに基づき体系的な教育を実践。外部講師や OSCE の導入、多面的な評価により、国試合格率 87.1%の高い成果を維持。（評価2）	実技や実習時間の充実、ICT 教材の活用による能動的学習を推奨。多様な学生への補習体制やレポートなど教員間の評価基準の統一を期待する。	カリキュラムマップやルーブリックの導入で教育を可視化。ICT 教材の活用と組織的な PDCA 運用により教育の質を高度化する。
【項目3】 学生支援・進路指導	心理士の常勤配置やグループ病院連携による健康管理、独自の経済支援を徹底。手厚い個別面談とキャリア支援で就学継続を支える。（評価3）	食や経済面の多角的な支援と相談体制を高く評価。今後は入試データと学修状況の連携分析、組織的な中退予防の強化に期待する。	データ分析による中退予備軍の早期抽出・共有体制を構築。入試情報の共有範囲を拡大し、入学後の個別指導や募集戦略に活用する。
【項目4】 教育実施組織・教員	厳格な採用基準と5つの教育方針を共有。医学部客員研究員や実習指導者講習の修了者が在籍し、高度な専門教育と地域貢献を実践。（評価3）	医学部連携による高度な研鑽を「独自の強み」と高く評価。今後は研修成果の組織的共有と、求める教員像の明確化による指導の統一を期待する。	時代の変化に合わせて教員研修規定を改定し、成果の組織共有を強化。採用・昇任基準の透明性を高め、教員の意欲と教育の質を向上。
【項目5】 教育環境	専門書 6 千冊超の図書室を夜 19 時まで開放。法令に基づく厳格な点検と、指定規則改正に合わせた最新教材の導入で安全な教育環境を維持。（評価2）	図書室や自習環境の充実を高く評価。今後は老朽化に伴う計画的な修繕、消防署と連携した実践的な防災訓練の実施を強く期待する。	中長期的な改修・更新計画を策定し予算化を図る。危機管理マニュアルの刷新と情報集約により、組織的な安全管理体制の実効性を高める。

<p><b>【項目6】</b> 教育活動の基盤と改善・向上の取組</p>	<p>財務諸表や第三者評価結果を HP で適切に公開。行政と連携した健康講座や介護予防セミナーへの講師派遣を通じ、地域社会へ貢献。（評価3）</p>	<p>適正な情報公開と地域貢献を高く評価。今後は外部提言の精査と優先順位付けを明確化し、改善過程を可視化する仕組み作りを期待する。</p>	<p>外部委員の提言を具体的なアクションプランへ落とし込み、実施結果を次期委員会で報告・検証する、実効性の高い評価サイクルを確立する。</p>
--	--	---	---

## 7. 総合所見および改善計画・今後の展望

### 【委員会からの総合所見】

建学理念に基づく入試から教育までの一貫した体制と、医学部連携等の高度な専門教育を高く評価する。国家試験合格率や経済的支援の実績は十分だが、今後は学生の多様化に対応した能動的学習の導入や、レポートなどの評価に対して教職員間での指導基準の統一が求められる。外部提言を具体的な改善計画に落とし込み、その過程を可視化することを期待する。

### 【学校の改善計画・今後の展望】

評価結果を真摯に受け止め、次年度は以下の3つの柱を軸に、さらなる教育の質の向上と地域貢献を推進します。

#### (1) 教育の質の高度化と個別最適化

- ①教育課程の変更に伴い、カリキュラムマップの導入：科目間の繋がりを可視化し、学生が学びの目的を自覚できる環境を整えます。
- ②アクティブラーニングの拡充とルーブリック評価の導入：視覚的教材（ICT教材を含む）を活用し、理解の促進を図るとともに、レポートなどの評価においては、誰が採点しても公平性が担保される評価基準（ルーブリック）を運用し、教育の平準化を図ります。

#### (2) 組織的な中退防止とキャリア支援

- ①早期リスク検知システムの構築：出席・学修データを分析し、教職員とカウンセラーが迅速に連携して中退を未然に防ぐ組織的支援を強化します。
- ②キャリア形成の具体化：キャリアコンサルタントと最終学年担当者から構成される就職委員会による支援を継続し、就職内定率だけでなく「ミスマッチのない就業」に向けた実績公表に努めます。

#### (3) 安全管理の徹底と地域共生の深化

- ①実効性のある防災体制：消防署等の外部機関と連携した実践的な訓練を実施し、危機管理マニュアルを形骸化させず常に更新し続けます。
- ②地域のリハビリテーション拠点へ：公開講座や行政連携の健康セミナーを通じ、学生のプロ意識を醸成するとともに、地域住民の健康寿命延伸に直接寄与する学校づくりを目指します。

以上